

# 漢方処方名ローマ字表記法 第2版

Standard Kampo Formula Nomenclature. 2nd ed.

ver. 1.0 5 March 2006

分担研究者：津谷喜一郎 (東京大学大学院薬学系研究科医薬経済学講座客員教授,  
Uppsala Monitoring Centre (UMC) Signal Reviewer)  
研究協力者：佐竹元吉 (日本生薬学会国際対応委員会委員長)  
鳥居塚和生 (日本東洋医学会用語委員会委員長)  
引網宏彰 (和漢医薬学会用語委員会委員長)  
山田和男 (日本東洋医学会用語委員会副委員長)  
詫間浩樹 (東京大学大学院薬学系研究科医薬経済学講座博士課程)

はじめに

「漢方処方名のローマ字表記法」プロジェクトは、2つの背景の下に開始された。

第1に、WHO International Drug Monitoring Centre である Uppsala Monitoring Centre (UMC, <http://www.who-umc.org/>)は、2002年から”herbal medicine” project として世界中の herbal medicine の ATC 分類(Anatomical, Therapeutic and Chemical classification) プロジェクトを開始した。“HATC”プロジェクトとも称される。このプロジェクトの一環として、日本の漢方処方さらに生薬の ATC 分類を要請された。現在、約 300 万件の副作用情報が収録されている UMC の“Vigibase”database に、世界中で使われる日本の漢方薬などの副作用情報が収録される際にこの ATC コードが用いられることになる。この ATC コードを UMC に送るにあたって、漢方処方のローマ字表記を決定する必要がある。

第2に、現在、改正作業が行われている第十五改正日本薬局方 (2006年3月公布予定)には、漢方処方が入り、そのローマ字表記が必要である。

上記2つの理由による漢方処方のローマ字表記は、漢方薬の使用や情報の国際化にあたり、調整し統一されることが望ましい。

本プロジェクトは、平成 15, 16, 17 年度厚生労働科学研究班「一般用漢方処方の見直しに資するための有用性評価 (EBM 確保) 手法及び安全性確保等に関する研究」(主任研究者：国立医薬品食品衛生研究所生薬部部長・合田幸広)の分担研究「一般用漢方処方の ATC 分類に関する研究」のサブトピックのひとつとして、「漢方処方名ローマ字表記法」としてなされたものである。

平成 16 年度までのプロジェクトの成果は『漢方処方名ローマ字表記法』として 2005 年 3 月 5 日に発行された。本ドキュメントは、平成 17 年度の成果を含んだ第 2 版(ver. 2.0)である。

## 2. 漢方処方名ローマ字表記の対象

今回ローマ字表記を行った対象は、2005年の第1版の228処方から、305処方へと拡大された。

第1版は、『一般用漢方処方の手引き』<sup>1)</sup>(1975)に現れる210処方と、2004年4月1日現在の210処方以外で市販されている医療用漢方製剤18処方の合計228処方を対象としていた。

本プロジェクトは、上記したように、厚生労働科学研究班「一般用漢方処方の見直しに資するための有用性評価 (EBM 確保) 手法及び安全性確保等に関する研究」の分担研究の一貫としてなされたものである。同研究班の別の分担研究である「一般用漢方処方の見直しを図るための調査研究」では全297処方 (Kampo Formulae List, 2nd ed. 2006) が定められた。

そこで、今回はこれを反映し含めることとした。それらの相互関係を図示すると以下のようなになる。

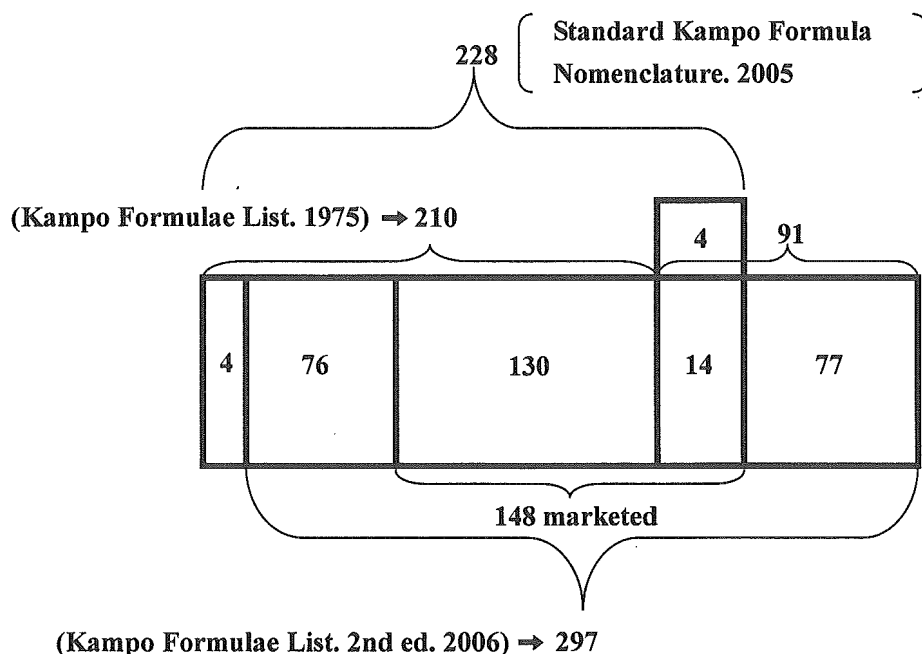


Fig. Relation between the number of Kampo Formulae listed in the authorized documents and those marketed in ethical form

すなわち、『一般用漢方処方の手引き』(1975)に現れるもので、297処方以外の4処方と、さらに2005年4月1日現在市販されている医療用漢方製剤のうち上記の297処方に含まれない4処方の、合計305処方とした。

後記する Table には以下の構成で結果を示す。

- Main list : 漢方処方のローマ字表記(Kampo Formulae List, 2nd ed.の297処方, 2006)
- Annex 1 : Main list 以外の医療用漢方製剤 (4処方, 2006)

Annex 2 : Kampo Formulae List. 1975 のうち、Main list で名称が統合された漢方処方 (4 処方, 2006)

以下に統合の経緯を示す。

- 1) 加味逍遙散合四物湯は、109B 加味逍遙散加川芎地黄に統合された。
- 2) 実脾飲は、182 分消湯 (実脾飲) に統合された。
- 3) 小青竜湯合麻杏甘石湯は、104A 小青竜湯加石膏に統合された。
- 4) 八味逍遙散は、109 逍遙散に統合された。

なお、もう一つのサブトピックの HATC 分類の対象も同じく 305 処方である。

### 3. 漢方処方名ローマ字表記法標準化のための方法

ローマ字表記の標準化のための方法は、以下のごとくである。

- 1) 関係者への聞き取りと文献調査<sup>2)-8)</sup>
- 2) これまでこの領域の関わる活動を行ってきた日本東洋医学会と和漢医薬学会それぞれの活動の歴史の確認<sup>9)-12)</sup>
- 3) 分担研究者と研究協力者らとの 18 回にわたる討議 (2003.6.9, 8.25, 11.10, 2004.1.26, 3.8, 4.26, 6.21, 8.29, 10.25, 11.29, 2005. 1.31, 2.15, 4.18, 5.29, 6.20, 9.12, 11.18, 2006. 2.13)

その結果、日本に関係する漢方処方のローマ字表記法には、以下の 7 種があった。

- 1) Hong-Yen HSU(許鴻源)の推奨するローマ字表記と英語表記<sup>3)</sup>
- 2) 丁宗鉄の推奨するローマ字表記とラテン語表記<sup>4)</sup>
- 3) 日本東洋医学会の使用するローマ字表記<sup>9),10)</sup>
- 4) 和漢医薬学会の使用するローマ字表記<sup>11),12)</sup>
- 5) 厚生労働省が副作用情報を UMC に送付する際に使用しているローマ字表記 (標準化されていない)
- 6) (株)医薬情報研究所の使用するローマ字表記
- 7) アイ・エム・エス・ジャパン(株)の使用するローマ字表記

### 4. 漢方処方名のローマ字表記法の原則

上記をそれぞれ比較吟味し、より合理的なローマ字表記法について議論を重ね、標準化のための原則を定めた。

(1) ヘボン式とする。

(2) ヘボン式にない表記は、「そえがき」<sup>13)</sup>におおむねしたがう。以下に本研究班としての考え方を示す。

- 1) はねる音「ン」は n で表すが、m, b, p の前では m を用いる。

- 2) はねる音を表す n と次に来る母音字または n や y とを切り離す必要がある場合には、n の次に'を入れる。
- 3) つまる音は、次に来る最初の子音字を重ねて表すが、次に ch が続く場合には c を重ねずに t を用いる。
- 4) 長音は母音字のみ(母音字の上に^を付けることや、母音字を並べることはしない)。
- 5) 特殊音の表記は適宜対応する。

## 5. 漢方処方名ローマ字表記法の細則と例示

### (1) 処方名の書き始めは原則、小文字とする。

古典や定本中の処方名、または一般名などのコンセプトとしての処方名は、小文字を用いる。一般名は西洋薬においても世界保健機関(World Health Organization: WHO)を含め世界的に小文字が用いられている。なお、製剤名、商品名など具体的な物質としての処方名の書き始めは大文字を用いる。

### (2) 処方名に含まれる生薬名間の整合性をとる。

処方目には生薬名が含まれることがある。たとえば漢方処方の「麻黄湯」は生薬「麻黄」を含む。今回の漢方処方のローマ字表記では複数の漢方処方に含まれる同一生薬のローマ字表記を統一するようにした。

なお、現行の日本薬局方には、たとえば、麻黄という日本名のローマ字表記 mao は含まれていない。このため、今回の漢方処方のローマ字表記標準化の作業が2006年公布予定の第十五改正日本薬局方に収載されることをスコープに入れると、将来なされるかもしれない生薬名の日本名のローマ字表記(例えば麻黄, mao)とも関連するものである。

### (3) ローマ字表記は処方名を日本語読みし、ヘボン式表記法とする。

- 1) 「し」は「shi」、「ち」は「chi」、「つ」は「tsu」、「ふ」は「fu」、「じ」、「ぢ」とともに「ji」、「ず」、「づ」とともに「zu」で表記する。「を」は使用しないので考慮しないこととする。

(例) 四物湯: shimotsuto、治頭瘡一方: jizusoippo、治打撲一方: jidabokuippo

- 2) はねる音「ン」は「n」で表す。ただし、「m, b, p」の前では「m」を用いる。

(例) 葛根湯: kakkonto、半夏白朮天麻湯: hangebyakujutsutemmato、甘麦大棗湯: kambakutaisoto、抑肝散加陳皮半夏: yokukansankachimpihange

- 3) はねる音を表す「n」と、次にくる母音字または「n」や「y」とを切り離す必要がある場合には、「n」の次に「'」を入れる。

(例) 葛根湯加川芎辛夷: kakkontokasenkyushin'i、延年半夏湯: en'nenhangeto、人参養栄湯: ninjin'yoeito

- 4) つまる音は、次にくる最初の子音字を重ねて表す。ただし、次に「ch」がくる場合は「c」を重ねずに「t」を用いる。

(例) 葛根湯: kakkonto

- 5) 長音は母音字のみとする。母音字の上に^を付けることや、母音字を並べることはしない。「ou」などは次のように表記する:

(例) 〇〇湯: ooto (ootou ではない)

黄耆建中湯: ogikenchuto、小柴胡湯: shosaikoto、竜胆瀉肝湯: ryutanshakanto

黄耆: ogi (ougi ではない)、地黄: jio (jiou ではない)、生姜: shokyo (shoukyou ではない)、川芎: senkyu (senkyuu ではない)、竜胆: ryutan (ryuutan ではない)

(4) 処方名の表記はハイフンで区切らない。

種々の議論の結果、ハイフンにより区切らないことを原則とした。理由は以下の3点。

- i) 非漢字文化圏での国際的な流用性に重きを置く。
- ii) ローマ字しか読めない人にとって読みやすくする。
- iii) 日本人がローマ字で記述するときに迷わなくてもよいようにする。

なお、議論の中では、以下のハイフン付けが検討された。

i) 剤形を表す漢字の前：

「湯、散、丸、飲、膏」などの剤形を示す言葉の前にハイフンを付すことが検討されたが、「飲子」の前にはハイフンを入れないなどの例外が多く、かえって分かりづらいとの意見が多かった。

ii) 加味方：

「加」によってあらわされるものは、葛根湯加川芎辛夷のように生薬が加味されたものと、桂枝茯苓丸料加薏苡仁のように処方名として独立したものがある。前者にはハイフンをつけることも考えられるが、これらをひとつずつ正確に分別することは多大な労力を要する。

iii) 合方：

「合」によってつなげられる、加味逍遥散合四物湯や茯苓飲合半夏厚朴湯なども加味方の場合と同じくその分別は一定の法則を設定するのが困難である。

以上、ローマ字の読み手にとっても書き手にとっても、ハイフンはむしろない方が、大勢としては使いやすいという結論となった。

以下に、記載例を示す。

- (例) 黄耆建中湯: ogikenchuto (ogi-kenchu-to ではない)
- 加味逍遥散: kamishoyosan (kami-shoyo-san ではない)
- 小柴胡湯 : shosaikoto (sho-saiko-to ではない)
- 猪苓湯合四物湯: choreitogoshimotsuto (choreito-go-shimotsuto ではない)

(5) 読みは『一般用漢方処方の手引き』<sup>1)</sup>(1975)の210処方の表記を原則とする。

ただし、議論の結果、以下の処方はその読みが妥当であると考えられ、以下を採用することとした。

- (例) 温経湯 : ウンケイトウ unkeito (onkeito ではない)
- 黄連阿膠湯: オウレンアキョウトウ oren'akyoto (oren'agyoto ではない)
- 十全大補湯: ジュウゼンタイホトウ juzentaihoto (juzendaihoto ではない)
- 参苓白朮散: ジンリョウビャクジュツサン jinryobyakujutsusan

(jinreibyakujujutsusan ではない)

疎経活血湯: ソケイカクケツトウ sokeikakketsuto (sokeikakketto ではない)

抑肝散 : ヨクカンサン yokukansan (yokkansann ではない)

(6) 複数の処方名ないし類似処方

複数の処方名ないし類似処方が存在するものは、以下とした。

(例) 桂芍知母湯は、OTC 製剤に「桂枝芍薬知母湯」が存在するので後者を括弧内に表記する。

柴朴湯は、医療用製剤名としてこれのみ存在するのでこれを採用する。

小柴胡合半夏厚朴湯ではない。

附子理中湯は、医療用製剤として存在するが、一般名として「附子人参湯」が使用されるので括弧内に表記する。

八味地黄丸は、医療用製剤と OTC 製剤として「八味丸」も使用されるので括弧内に表記する。

6. 漢方処方の漢字表記

議論の中で漢方処方の表記に用いる漢字が文献によって異なることが指摘され、漢字、カタカナ、ローマ字の対応リストを作る際にも、漢字を吟味すべきとされた。種々の議論から、付記する漢字の採択に当たって以下の2点を原則とすることとなった。

- 1) 常用漢字(1981)を原則とする。漢字学でいう、正字(いわゆる旧字体)、異字、略字、誤字のうち、日本の漢字は略字が多い。すなわち、今回のリスト作成においては、漢字学でいう正字にはこだわらない。
- 2) 日本で広く使われる漢字を用いる。コンピュータによる入力を容易にするためである。

このため、第十四改正日本薬局方 (2001 年発行)や日本薬局方外生薬規格 1989 増補版などとは異なる漢字(「葛」、「芍」、「蓮」など)もある。

なお、本プロジェクトは、ローマ字表記標準化が目的であり、漢字表記やカタカナ表記の統一は目的としてない。

以下に、記載例を示す。

(例)

「巳」の字体を用いる。

防巳黄耆湯, 防巳茯苓湯, 木防巳湯

「葛」の字体を用いる。

葛根黄連黄芩湯, 葛根紅花湯, 葛根湯, 葛根湯加川芎辛夷,

桂枝加葛根湯, 升麻葛根湯, 独活葛根湯, 葛根加朮附湯

「健」の字体を用いる。

補気健中湯

「芩」の字体を用いる。

黄芩湯, 葛根黄連黄芩湯, 三物黄芩湯

「芍」の字体を用いる。

桂枝加芍薬生姜人参湯, 桂枝加芍薬大黄湯, 桂枝加芍薬湯,

柴芍六君子湯, 芍薬甘草湯, 当帰芍薬散,

桂芍知母湯(桂枝芍薬知母湯), 芍薬甘草附子湯,

当帰芍薬散加附子

「榔」の字体を用いる。

九味檳榔湯

「遙」の字体を用いる。

加味逍遙散, 加味逍遙散合四物湯, 逍遙散, 八味逍遙散

「蛎」の字体を用いる。

桂枝加竜骨牡蛎湯, 柴胡加竜骨牡蛎湯

「蓮」の字体を用いる。

清心蓮子飲

## 7. 他の医薬品命名法などとの関係

### (1) 医薬品の国際一般名

医薬品の国際一般名(International Nonproprietary Name: INN)は世界保健機関(World Health Organization: WHO)によって、リストが作成され、命名され、ラテン語、英語、フランス語、ロシア語、スペイン語、アラビア語、中国語による同義(equivalent)の名前で表記されている<sup>13)</sup>。WHOは国連システムの中の専門機関として、上記のうち、英語、フランス語、ロシア語、スペイン語、中国語の5言語を公式用語(official language)としている。またアラビア語は準公式用語のあつかいである。さらに医薬品の分野で使われるラテン語を含み、INNは7つの言語表記を用いている。

ここで、“INN”は“generic name”と同義である。WHOの総会決議で最初に“generic name”という用語が用いられたの、1968年に採択された「医薬品の広告に関する倫理的基準」(WHA21.41 Ethical criteria for medicinal drug promotion, 1968)の中であった。この基準の中で、有効成分の“generic or nonproprietary name”による適正な表示を求める旨の記載の部分に“nonproprietary name”の同義語として使用されている。なお英語圏では“generic name”は農薬などを含むことがある。

INNは、生薬やハーブなどは含んでおらず、漢方処方などの歴史的に形成された複数の生薬からなる処方も含んでいない。

### (2) 一般的名称と日本薬局方

日本では、「一般的名称」(Japanese Accepted Name: JAN)が作成されている。INNとJANとの関係は2000年の通知<sup>14)</sup>に記載されている。「一般的名称」には日本語と英語名がある。それぞれ、日本薬局方の「日本名」と「英名」に使われる。なお「一般的名称」は行政的にも「一般名」と称される<sup>15)</sup>。

日本薬局方は、日本名、英名、ラテン名(生薬関係品目のみ)、日本名別名、生薬の漢字名(生薬関係品目のみ)などを含むとされる。たとえば、ephedrine (INN)

の日本名は、ephedrine を字訳基準に基づいて日本語訳したエフェドリンである。

一方、生薬は、たとえば、日本名のマオウは、英名が Ephedra Herb、ラテン名が EPHEDRA HERBA、漢字名が麻黄である。

今回のプロジェクトで作成されたものは、漢方処方ローマ字表記であり、日本薬局方という「英名」とは呼べないであろう。日本薬局方の「英名」は多くは JAN を介して INN に対応するものである。

### (3) ヨーロッパ系の言語による表記との関係

漢方処方名をヨーロッパ系の言語で表記しようとする試みはいくつか存在する。たとえば、小柴胡湯を、英語で Minor Bupleurum Combination<sup>3)</sup>、ラテン語で *Forumula bulperi minor*<sup>4)</sup> と表記する類である。表意文字の漢字の持つ情報をいくらかでも残そうとするものである。ただし固有名詞である処方名を表音文字で表現するのは限界がある。

2002 年の Park らのレビュー<sup>6)</sup>でも、中国語、日本語、韓国語の発音のローマ字表記が多いこと、またその方法が標準化されていないことが指摘されている。2002 年以降に中国で発行された出版物でも、小柴胡湯を Xiaochaihu Decoction などと表記するものが多い。一部はすべて小文字で表記しているものもある。これら中国語のローマ字表記をとる方法は、中国の薬局方である『中華人民共和国薬典』の表記法に準じていると思われる。

そこで、今回の日本の漢方処方については、内容をいくらか反映したヨーロッパ系の言語の名称ではなく、日本語読みのローマ字表記とした。その理由の第 1 は、ヨーロッパ系の言語の名称はそれなりに価値を持つものであるが、その標準化となると東アジアで漢方処方を用いる、中国、日本、韓国などを含む国々との共同作業が必要でありそれには長い時間がかかることが予想される。第 2 に、同じ漢方処方名であっても国によって処方内容が異なるなどの問題があり、むしろ日本語のローマ字表記にしたほうが他と区別できるという利点がある。

ここで「ローマ字表記」としたのは「英名」ではないことを明確にするためである。

### 参考文献

- 1) 厚生省薬務局 (監修). 一般用漢方処方の手引き. 薬業時報社; 1975.
- 2) 森田幸門. 日・独・英対訳漢法医語事典: 中国語発音つき. 森田漢法治療学研究所; 1980.
- 3) Hsu HY, Hsu CS. Commonly used Chinese herb formulas with illustrations. Los Angeles: Oriental Healing Arts Institute; 1980.
- 4) 丁 宗鉄(編著). 和英東洋医学用語集. 医聖社; 1987.
- 5) 日本漢方生薬製剤協会編. 医療用漢方製剤要覧. 日本漢方生薬製剤協会; 1995.
- 6) Park J, Park HJ, Lee HJ, Ernst E. What's in a name? A systematic review of the nomenclature of Chinese medical formulae. *The American Journal of Chinese Medicine* 2002; 30 (2, 3): 419-27.
- 7) 日本医薬情報センター編. 医療薬 日本医薬品集. じほう; 2004.
- 8) 日本医薬情報センター編. 一般薬 日本医薬品集. じほう; 2004.
- 9) 東洋医学用語集(1999 年度版). (社)日本東洋医学会, 1999 年 4 月. [漢方処方 228 処方のリストは, i)漢字名, ii)ひらがな, iii)ローマ字, iv)中国語のピンインの 4 要素



- からなる(p.13-9). なお, 164種の生薬リストは,i)漢字名, ii)ひらがな, iii)ローマ字, iv)ラテン名, v)英名の5要素からなる(p. 20-4)]
- 10) 鳥居塚和生. 用語や表記法に関する日本東洋医学会の活動の経緯 (2003年10月28日).
  - 11) 和漢医薬会がこれまで使用してきたローマ字表記リスト ( i)漢字名, ii)ひらがな, iii)ローマ字, iv)中国語のピンイン, 124 処方) (1984年12月20日).
  - 12) 引網宏彰. 和漢医薬学会「方剤名記載のための申し合わせ事項」の作成の経緯とリストに掲載された方剤が選択された根拠について (2003年10月29日).
  - 13) ローマ字のつづり方. 1954 (昭和29)年12月9日付内閣告示第一号による. 新村 出 (編) 広辞苑第5版. 岩波書店; 1998. p.2962-3.
  - 14) Kopp-Kubel S. Drug nomenclature. In: Wermuth CG, editor. The practice of medicinal chemistry. 2nd ed. Amsterdam: Academic Press; 2003. p.697-705.  
[長瀬 博(監訳). 最新創薬化学:探索研究から開発まで 下巻 改訂第2版. テクノミック; 2006. p.535-56]
  - 15) 国際一般名(INN)の決定手続きについて. 厚生省医薬安全局審査管理課長通知 (医薬審第520号, 2000.3.27).
  - 16) 医薬品の一般的名称の取扱いについて. 厚生省薬務局長通知 (薬発第509号, 1991.5.1).

#### 謝辞

本プロジェクトに協力いただいた、東京大学大学院薬学系研究科医薬経済学博士課程・菊田健太郎、同薬学部・リヨンフォンマンアグネス(梁鳳雯)の諸君に謝意を表す。また、医薬品の国際一般名(International Nonproprietary Name: INN)についてご教示いただいたWHO国際一般名専門家委員会委員である名古屋市立大学大学院薬学系研究科薬化学研究室教授・宮田直樹氏にお礼申し上げる。

## Table

Main List 漢方処方 のローマ字表記 (Kampo Formulae List. 2nd ed. の297処方, 2006)

ver. 1.0 5 March 2006

No.	漢字 (Han character)	カタカナ (katakana)	ローマ字 (Roman alphabet)
1	安中散	アンチュウサン	anchusan
1A	安中散加茯苓	アンチュウサンカブクリョウ	anchusankabukuryo
2	胃風湯	イフウトウ	ifuto
3	胃苓湯	イレイトウ	ireito
4	茵陳蒿湯	インチンコウトウ	inchinkoto
5	烏薬順気散	ウヤクジュンキサン	uyakujunkisan
6	烏苓通気散	ウレイツウキサン	ureitsukisan
7	温経湯	ウンケイトウ	unkeito
8	温清飲	ウンセイイン	unsein
9	温胆湯	ウンタントウ	untanto
9A	加味温胆湯	カミウンタントウ	kamiuntanto
9B	竹茹温胆湯 (竹筴温胆湯)	チクジョウンタントウ	chikujountanto
10	温脾湯	ウンピトウ	umpito
11	越婢加朮湯	エッピカジュツトウ	eppikajutsuto
11A	越婢加朮附湯	エッピカジュツブトウ	eppikajutsubuto
11B	桂枝越婢湯	ケイシエッピトウ	keishieppito
11C	桂枝二越婢一湯	ケイシニエッピイトウ	keishinieppiitto
11D	桂枝二越婢一湯加朮附	ケイシニエッピイトウ カジュツブ	keishinieppiittokajutsu
12	延年半夏湯	エンネンハンゲトウ	en'nenhangeto
13	応鐘散	オウショウサン	oshosan
14	黄連阿膠湯	オウレンアキョウトウ	oren'akyoto
15	黄連解毒湯	オウレンゲドクトウ	orengedokuto
16	黄連湯	オウレントウ	orento
17	乙字湯	オツジトウ	otsujito
17A	乙字湯去大黄	オツジトウキョダイオウ	otsujitokyodaio
18	解急蜀椒散	カイキュウシヨクショウトウ	kaikyushokushoto
19	加減涼隔散 (万病回春)	カゲンリョウカクサン (マンビョウカイシュン)	kagenryokakusan (manbyokaishun)
19A	加減涼隔散 (浅田家方)	カゲンリョウカクサン (アサダカホウ)	kagenryokakusan (asadakaho)
20	藿香正气散	カッコウシヨウキサン	kakkoshokisan
21	葛根黄連黄芩湯	カクコンオウレンオウゴントウ	kakkon'oren'ogonto
22	葛根紅花湯	カクコンコウカトウ	kakkonkokato
23	葛根湯	カクコントウ	kakkonto
23A	葛根湯加川芎辛夷	カクコントウカセンキュウシンイ	kakkontokasenyushin'i
23B	独活葛根湯	ドツカツカクコントウ	dokkatsukakkonto
24	加味解毒湯	カミゲドクトウ	kamigedokuto
25	栝楼薤白白酒湯	カロウガイハクハクシュトウ	karogaihakuhakushuto
25A	栝楼薤白湯	カロウガイハクトウ	karogaihakuto
26	乾姜人参半夏丸	カンキョウニンジンハンゲガン	kankyoninjinhangegan

No.	漢字 (Han character)	カタカナ (katakana)	ローマ字 (Roman alphabet)
27	甘草湯	カンゾウトウ	kanzoto
28	甘草附子湯	カンゾウブシトウ	kanzobushito
29	甘麦大棗湯	カンバクタイソウトウ	kambakutaisoto
30	甘露飲	カンロイン	kanroin
31	桔梗湯	キキョウトウ	kikyoto
32	帰脾湯	キヒトウ	kihito
32A	加味帰脾湯	カミキヒトウ	kamikihito
33	芎帰調血飲	キュウキチヨウケツイン	kyukichoketsuin
33A	芎帰調血飲第一加減	キュウキチヨウケツイン ダイイチカゲン	kyukichoketsuindaiichikagen
34	響声破笛丸	キョウセイハテキガン	kyoseihatekigan
35	杏蘇散	キョウソサン	kyososan
36	玉屏風散	ギョクヘイフウサン	gyokuheifusan
37	銀翹散	ギンギョウサン	gingyosan
38	苦参湯	クジントウ	kujinto
39	驅風解毒散 (驅風解毒湯)	クフウゲドクサン (クフウゲドクトウ)	kufugedokusan or kufugedokuto
40	九味檳榔湯	クミビンロウトウ	kumibinroto
41	荊芥連翹湯	ケイガイレンギョウトウ	keigairengyoto
42	鶏肝丸	ケイカンガン	keikangan
43	桂姜棗草黄辛附湯	ケイキョウソウソウオウシン ブトウ	keikyososooshimbuto
44	桂枝湯	ケイシトウ	keishito
44A	桂枝加葛根湯	ケイシカカッコントウ	keishikakakkonto
44B	桂枝加厚朴杏仁湯	ケイシカコウボクキョウニンントウ	keishikakobokuyoninto
45	桂枝加黄耆湯	ケイシカオウギトウ	keishikaogito
45A	黄耆桂枝五物湯	オウギケイシゴモツトウ	ogikeishigomotsuto
46	桂枝加芍薬湯	ケイシカシャクヤクトウ	keishikashakuyakuto
46A	桂枝加芍薬生姜人参湯	ケイシカシャクヤク ショウキョウニンジンントウ	keishikashakuyakushokyoninjinto
46B	桂枝加芍薬大黃湯	ケイシカシャクヤクダイオウトウ	keishikashakuyakudaioto
47	桂枝加朮附湯	ケイシカジュツブトウ	keishikajutsubuto
47A	桂枝加苓朮附湯	ケイシカリョウジュツブトウ	keishikaryojutsubuto
48	桂枝加竜骨牡蛎湯	ケイシカリョウコツボレイトウ	keishikaryukotsuboreito
49	桂芍知母湯 (桂枝芍薬知母湯)	ケイシャクチモトウ (ケイシシャクヤクチモトウ)	keishakuchimoto or keishishakuyakuchimoto
50	桂枝茯苓丸	ケイシブクリョウガン	keishibukuryogan
50A	桂枝茯苓丸料加薏苡仁	ケイシブクリョウガンリョウ カヨクイニン	keishibukuryoganryokayokuinin
50B	甲字湯	コウジトウ	kojito
51	啓脾湯	ケイヒトウ	keihito
52	荊防敗毒散	ケイボウハイドクサン	keibohaidokusan
53	桂麻各半湯	ケイマカクハントウ	keimakakuhanto
54	鶏鳴散加茯苓	ケイメイサンカブクリョウ	keimeisankabukuryo
55	外台四物湯	ゲダイシモツトウ	gedaishimotsuto

No.	漢字 (Han character)	カタカナ (katakana)	ローマ字 (Roman alphabet)
56	堅中湯	ケンチュウトウ	kenchuto
57	香砂養胃湯	コウシャヨウイトウ	koshayoito
58	厚朴生姜半夏人参甘草湯	コウボクショウキョウハンゲ ニンジンカンゾウトウ	kobokushokyohangeninjinkanzoto
59	香蘇散	コウソサン	kososan
60	牛膝散	ゴシツサン	goshitsusan
61	呉茱萸湯	ゴシュユトウ	goshuyuto
62	五積散	ゴシヤクサン	goshakusan
63	五物解毒散	ゴモツゲドクサン	gomotsugedokusan
64	五淋散	ゴリンサン	gorinsan
65	五苓散	ゴレイサン	goreisan
65A	茵陳五苓散	インチンゴレイサン	inchingoreisan
65B	四苓湯	シレイトウ	shireito
65C	沢瀉湯	タクシャトウ	takushato
66	柴葛解肌湯 (浅田家方)	サイカツゲキトウ (アサダカホウ)	saikatsugekito (asadakaho)
66A	柴葛湯加川芎辛夷	サイカツトウカセンキュウ シンイ	saikatsutokasenkyushin'i
67	柴梗半夏湯	サイキョウハンゲトウ	saikyohangeto
68	柴胡加竜骨牡蛎湯	サイコカリユウコツボレイトウ	saikokaryukotsuboreito
69	柴胡枳桔湯	サイコキキツトウ	saikokikitsuto
70	柴胡桂枝乾姜湯	サイコケイシカンキョウトウ	saikokeishikankyoto
71	柴胡桂枝湯	サイコケイシトウ	saikokeishito
72	柴胡清肝湯	サイコセイカントウ	saikoseikanto
73	柴朴湯	サイボクトウ	saibokuto
74	柴苓湯	サイレイトウ	saireito
75	左突膏	サトツコウ	satotsuko
76	三黄瀉心湯	サンオウシャシントウ	san'oshashinto
76A	三黄散	サンオウサン	san'osan
77	酸棗仁湯	サンソウニントウ	sansoninto
78	三物黄芩湯	サンモツオウゴントウ	sammotsuogonto
79	滋陰降火湯	ジインコウカトウ	jiinkokato
80	滋陰至宝湯	ジインシホウトウ	jiinshihoto
81	紫雲膏	シウンコウ	shiunko
82	四逆散	シギヤクサン	shigyakusan
82A	解勞散	カイロウサン	kairosan
82B	柴胡疎肝湯	サイコソカントウ	saikosokanto
83	四逆湯	シギヤクトウ	shigyakuto
83A	四逆加人參湯	シギヤクカニンジントウ	shigyakukaninjinto
83B	甘草乾姜湯	カンゾウカンキョウトウ	kanzokankyoto
84	四君子湯	シクンシトウ	shikunshito
85	滋血潤腸湯	ジケツジュンチョウトウ	jiketsujunchoto
86	紫根牡蛎湯	シコンボレイトウ	shikomboreito
87	梔子豉湯	シシシトウ	shishishito

No.	漢字 (Han character)	カタカナ (katakana)	ローマ字 (Roman alphabet)
88	梔子柏皮湯	シシハクヒトウ	shishihakuhito
89	滋腎通耳湯	ジジンツウジトウ	jijintsujito
90	滋腎明目湯	ジジンメイモクトウ	jijimmeimokuto
91	四物湯	シモツトウ	shimotsuto
91A	芎藭膠艾湯	キュウキキョウガイトウ	kyukikyogaito
91B	加味四物湯 (医学正伝)	カミシモツトウ (イガクセイデン)	kamishimotsuto (igakuseiden)
91C	七物降下湯	シチモツコウカトウ	shichimotsukokato
91D	当帰飲子	トウキインシ	tokiinshi
92	柿蒂湯	シテイトウ	shiteito
93	炙甘草湯	シャカンゾウトウ	shakanzoto
94	芍薬甘草湯	シャクヤクカンゾウトウ	shakuyakukanzoto
94A	芍薬甘草附子湯	シャクヤクカンゾウブシトウ	shakuyakukanzobushito
94B	黄芩湯	オウゴントウ	ogonto
95	鷓鴣菜湯 (三味鷓鴣菜湯)	シャコサイトウ (サンミシャコサイトウ)	shakosaito or sammishakosaito
96	蛇床子湯	ジャショウシトウ	jashoshito
97	十全大補湯	ジュウゼンタイホトウ	juzentaihoto
98	十味敗毒湯	ジュウミハイドクトウ	jumihaidokuto
99	潤腸湯	ジュンチョウトウ	junchoto
100	蒸眼一方	ジョウガンイッポウ	jogan'ippo
101	小建中湯	ショウケンチュウトウ	shokenchuto
101A	黄耆建中湯	オウギケンチュウトウ	ogikenchuto
101B	当帰建中湯	トウキケンチュウトウ	tokikenchuto
101C	帰耆建中湯	キギケンチュウトウ	kigikenchuto
102	小柴胡湯	ショウサイコトウ	shosaikoto
102A	小柴胡湯加桔梗石膏	ショウサイコトウカキキョウ セッコウ	shosaikotokakikyosekko
102B	柴蘇飲	サイソイン	saisoin
102C	柴陷湯	サイカントウ	saikanto
102D	清肌安蛔湯	セイキアンカイトウ	seikiankaito
103	小承気湯	ショウジョウキトウ	shojokito
104	小青竜湯	ショウセイリュウトウ	shoseiryuto
104A	小青竜湯加石膏	ショウセイリュウトウカセッコウ	shoseiryutokasekko
104B	小青竜湯加杏仁石膏	ショウセイリュウトウカ キョウニンセッコウ	shoseiryutokakyoninsekko
105	小半夏加茯苓湯	ショウハンゲカブクリョウトウ	shohangekabukuryoto
106	升麻葛根湯	ショウマカクコントウ	shomakakkonto
107	椒梅湯	ショウバイトウ	shobaito
108	消風散	ショウフウサン	shofusan
109	逍遙散	ショウヨウサン	shoyosan
109A	加味逍遙散	カミショウヨウサン	kamishoyosan
109B	加味逍遙散加川芎地黄	カミショウヨウサンカ センキュウジオウ	kamishoyosankasenkyujio
110	辛夷清肺湯	シンイセイハイトウ	shin'iseihaito

No.	漢字 (Han character)	カタカナ (katakana)	ローマ字 (Roman alphabet)
111	秦艽羌活湯	ジンギョウキョウカツトウ	jingyokyokatsuto
112	秦艽防風湯	ジンギョウボウフウトウ	jingyobofuto
113	神仙太乙膏	シンセンタイツコウ	shinsentaitsuko
114	參蘇飲	ジンソイン	jinsoin
115	神秘湯	シンピトウ	shimpito
116	真武湯	シンブトウ	shimbuto
117	參苓白朮散	ジンリョウビャクジュツサン	jinryobyakujutsusan
118	喘四君子湯	ゼンシクンシトウ	zenshikunshito
119	清湿化痰湯	セイシツケタントウ	seishitsuketanto
120	清上蠲痛湯 (驅風触痛湯)	セイジョウケンツウトウ (クフウショクツウトウ)	seijokentsuto or kufushokutsuto
121	清上防風湯	セイジョウボウフウトウ	sejjobofuto
122	清暑益氣湯	セイショエッキトウ	seishoekkito
123	清心蓮子飲	セイシンレンシイン	seishinrenshiin
124	清熱補氣湯	セイネツホキトウ	seinetsuhokito
125	清熱補血湯	セイネツホケツトウ	seinetsuhoketsuto
126	清肺湯	セイハイトウ	seihaito
127	折衝飲	セッショウイン	sesshoin
128	洗肝明目湯	センカンメイモクトウ	senkammeimokuto
129	川芎茶調散	センキウウチャチョウサン	senkyuchachosan
130	千金鷄鳴散	センキンケイメイサン	senkinkeimeisan
132	錢氏白朮散	ゼンシビャクジュツサン	zenshibyakujutsusan
131	千金内托散	センキンナイタクサン	senkin'naitakusan
133	續命湯	ゾクメイトウ	zokumeito
133A	小續命湯	ショウゾクメイトウ	shozokumeito
134	疎経活血湯	ソケイカクケツトウ	sokeikakketsuto
135	蘇子降氣湯	ソシコウキトウ	soshikokito
136	大黃甘草湯	ダイオウカンゾウトウ	daiokanzoto
137	大黃附子湯	ダイオウブシトウ	daiobushito
138	大黃牡丹皮湯	ダイオウボタンピトウ	daiobotampito
139	大建中湯	ダイケンチュウトウ	daikenchuto
139A	中建中湯	チュウケンチュウトウ	chukenchuto
140	大柴胡湯	ダイサイコトウ	daisaikoto
140A	大柴胡去大黃湯 (大柴胡去大黃)	ダイサイコトウキョダイオウトウ (ダイサイコトウキョダイオウ)	daisaikotokyodaioto or daisaikotokyodaio
141	大半夏湯	ダイハンゲトウ	daihangeto
142	大防風湯	ダイボウフウトウ	daibofuto
143	治打撲一方	ヂダボクイッポウ	jidabokuippo
144	治頭瘡一方	ヂツソウイッポウ	jizusoippo
145	中黃膏	チュウオウコウ	chuoko
146	調胃承氣湯	チョウエイジョウキトウ	choijokito
147	丁香柿蒂湯	チョウコウシテイトウ	chokoshiteito
148	釣藤散	チョウトウサン	chotosan
149	猪苓湯	チョレイトウ	choreito
149A	猪苓湯合四物湯	チョレイトウゴウシモツトウ	choreitogoshimotsuto

No.	漢字 (Han character)	カタカナ (katakana)	ローマ字 (Roman alphabet)
150	通導散	ツウドウサン	tsudosan
151	天王補心丸	テンノウホシンガン	ten'nohoshingan
152	桃核承気湯	トウカクジョウキトウ	tokakujokito
153	当帰散	トウキサン	tokisan
154	当帰四逆湯	トウキシギヤクトウ	tokishigyakuto
154A	当帰四逆加呉茱萸生姜湯	トウキシギヤクカゴシュユ ショウキョウトウ	tokishigyakukagoshuyushokyoto
155	当帰芍薬散	トウキシヤクヤクサン	tokishakuyakusan
155A	当帰芍薬散加附子	トウキシヤクヤクサンカブシ	tokishakuyakusankabushi
155B	当帰芍薬散加人參	トウキシヤクヤクサンカニンジン	tokishakuyakusankaninjin
155C	当帰芍薬散加黄耆釣藤	トウキシヤクヤクサンカオウギ チョウトウ	tokishakuyakusankaogichoto
156	当帰湯	トウキトウ	tokito
157	当帰貝母苦参丸料	トウキバイモクジンガンリョウ	tokibaimokujinganryo
158	独活寄生湯	ドッカツキセイトウ	dokkatsukiseito
159	独活湯	ドッカツトウ	dokkatsuto
160	二朮湯	ニジュツトウ	nijutsuto
161	二陳湯	ニチントウ	nichinto
161A	枳縮二陳湯	キシユクニチントウ	kishukunichinto
162	女神散 (安榮湯)	ニョシンサン (アンエイトウ)	nyoshinsan or an'eito
163	人參湯 (理中丸)	ニンジントウ (リチュウガン)	ninjinto or richugan
163A	桂枝人參湯	ケイシニンジントウ	keishininjinto
163B	附子理中湯 (附子人參湯)	ブシリチュウトウ (ブシニンジントウ)	bushirichuto or bushininjinto
164	人參養榮湯	ニンジンヨウエイトウ	ninjin'yoeito
165	排膿散及湯	ハイノウサンキュウトウ	hainosankyuto
165A	排膿散	ハイノウサン	hainosan
165B	排膿湯	ハイノウトウ	hainoto
166	麦門冬湯	バクモンドウトウ	bakumondoto
166A	竹葉石膏湯	チクヨウセッコウトウ	chikuyosekkoto
167	八味地黄丸 (八味丸)	ハチミジオウガン (ハチミガン)	hachimijiogan or hachimigan
167A	牛車腎気丸	ゴシャジンキガン	goshajinkigan
167B	六味丸 (六味地黄丸)	ロクミガン (ロクミジオウガン)	rokumigan or rokumijiogan
167C	杞菊地黄丸	コギクジオウガン	kogikujiogan
167D	知柏地黄丸	チバクジオウガン	chibakujiogan
167E	味麦地黄丸	ミバクジオウガン	mibakujiogan
168	八味疝気方	ハチミセンキホウ	hachimisenkiho
169	半夏厚朴湯	ハンゲコウボクトウ	hangekobokuto
170	半夏散及湯	ハンゲサンキュウトウ	hangesankyuto
171	半夏瀉心湯	ハンゲシャシントウ	hangeshashinto
171A	甘草瀉心湯	カンゾウシャシントウ	kanzoshashinto
171B	生姜瀉心湯	ショウキョウシャシントウ	shokyoshashinto
172	半夏白朮天麻湯	ハンゲビヤクジュツテンマトウ	hangebyakujutsutemmato

No.	漢字 (Han character)	カタカナ (katakana)	ローマ字 (Roman alphabet)
173	白朮附子湯	ビャクジュツブシトウ	byakujutsubushito
174	白虎湯	ビャッコトウ	byakkoto
174A	白虎加桂枝湯	ビャッコカケイシトウ	byakkokakeishito
174B	白虎加人參湯	ビャッコカニンジンシトウ	byakkokaninjinto
175	伏竜肝湯	ブクリュウカントウ	bukuryukanto
176	茯苓飲	ブクリョウイン	bukuryoin
176A	茯苓飲加半夏	ブクリョウインカハンゲ	bukuryoinkahange
176B	茯苓飲合半夏厚朴湯	ブクリョウインゴウハンゲ コウボクトウ	bukuryoingohangekobokuto
177	茯苓杏仁甘草湯	ブクリョウキョウニン カンゾウトウ	bukuryokyoninkanzoto
178	茯苓四逆湯	ブクリョウシギヤクトウ	bukuryoshigyakuto
179	茯苓沢瀉湯	ブクリョウタクシャトウ	bukuryotakushato
180	附子粳米湯	ブシコウベイトウ	bushikobeito
181	扶脾生脈散	フヒシヨウミヤクサン	fuhishomyakusan
182	分消湯 (実脾飲)	ブンシヨウトウ (ジッピイン)	bunshoto or jippiin
183	平胃散	ヘイイサン	heiisan
183A	香砂平胃散	コウシャヘイイサン	koshaheiisan
183B	加味平胃散	カミヘイイサン	kamiheiisan
183C	不換金正気散	フカンキンシヨウキサン	fukankinshokisan
184	防己黄耆湯	ボウイオウギトウ	boiogito
185	防己茯苓湯	ボウイブクリョウトウ	boibukuryoto
186	防風通聖散	ボウフウツウシヨウサン	bofutsushosan
187	補気健中湯	ホキケンチュウトウ	hokikenchuto
188	補中益気湯	ホチュウエッキトウ	hochuekkito
189	補肺湯	ホハイトウ	hohaito
190	補陽環五湯	ホヨウカンゴトウ	hoyokangoto
191	奔豚湯 (金匱要略)	ホントントウ (キンキョウリヤク)	hontonto (kinkiyoryaku)
191A	奔豚湯 (肘後方)	ホントントウ (チュウゴホウ)	hontonto (chugoho)
192	麻黄附子細辛湯	マオウブシサイシントウ	maobushisaishinto
193	麻黄湯	マオウトウ	maoto
194	麻杏甘石湯	マキョウカンセキトウ	makyokansekitou
194A	五虎湯	ゴコトウ	gokoto
195	麻杏薏甘湯	マキョウヨクカントウ	makyoyokukanto
196	麻子仁丸	マシニンガン	mashiningan
197	木防己湯	モクボウイトウ	mokuboito
198	楊柏散	ヨウハクサン	yohakusan
199	薏苡仁湯	ヨクイニントウ	yokuininto
200	薏苡附子敗醬散	ヨクイブシハイシヨウサン	yokuibushihaihosan
201	抑肝散	ヨクカンサン	yokukansan
201A	抑肝散加陳皮半夏	ヨクカンサンカチンピハンゲ	yokukansankachimpihange
201B	抑肝散加芍薬黄連	ヨクカンサンカシヤクヤク オウレン	yokukansankashakuyakuoren



No.	漢字 (Han character)	カタカナ (katakana)	ローマ字 (Roman alphabet)
202	六君子湯	リックンシトウ	rikkunshito
202A	香砂六君子湯	コウシャリックンシトウ	kosharikkunshito
202B	柴芍六君子湯	サイシャクリックンシトウ	saishakurikkunshito
202C	化食養脾湯	カシヨクヨウヒトウ	kashokuyohito
202D	八解散	ハチゲサン	hachigesan
203	立効散	リッコウサン	rikkosan
204	苓姜朮甘湯	リョウキョウジュツカントウ	ryokyojutsukanto
205	竜胆瀉肝湯	リュウタンシャカントウ	ryutanshakanto
206	苓甘姜味辛夏仁湯	リョウカンキョウミシンゲ ニントウ	ryokankyomishingeninto
207	苓桂甘棗湯	リョウケイカンソウトウ	ryokeikansoto
208	苓桂朮甘湯	リョウケイジュツカントウ	ryokeijutsukanto
208A	明朗飲加菊花	メイロウインカキクカ	meiroinkakikuka
208B	定悸飲	テイキイン	teikiin
208C	連珠飲	レンジュイン	renjuin
209	苓桂味甘湯	リョウケイミカントウ	ryokeimikanto
210	麗沢通気湯	レイタクツウキトウ	reitakutsukito

Annex 1 Main list以外の医療用漢方製剤 (4処方, 2006)

No.	漢字 (Han character)	カタカナ (katakana)	ローマ字 (Roman alphabet)
211	葛根加朮附湯	カクコンカジュツブトウ	kakkonkajutsubuto
212	桔梗石膏	キキョウセッコウ	kikyosekko
213	大承気湯	ダイジョウキトウ	daijokito
214	腸癰湯	チョウヨウトウ	choyoto

Annex 2 Kampo Formulae List. 1975のうち、Main listで名称が統合された漢方処方 (4処方, 2006)

	漢字 (Han character)	カタカナ (katakana)	ローマ字 (Roman alphabet)
1)	加味逍遙散合四物湯	カミシヨウヨウサンゴウシモツ トウ	kamishoyosangoshimotsuto
2)	実脾飲	ジッピイン	jippiin
3)	小青竜湯合麻杏甘石湯	シヨウセイリュウトウゴウ マキョウカンセキトウ	shoseiryutogomakyokansekito
4)	八味逍遙散	ハチミシヨウヨウサン	hachimishoyosan

# 漢方処方 of ATC 分類表. 第2版

Herbal ATC Classification of Kampo Formulae. 2nd ed.

5 March 2006

分担研究者：津谷喜一郎

(東京大学大学院薬学系研究科医薬経済学講座客員教授,  
Uppsala Monitoring Centre (UMC) Signal Reviewer)

研究協力者：相見 則郎 (日本生薬学会)

伊藤 剛 (北里研究所東洋医学総合研究所 WHO 伝統医学協力センター)

篠原 宣 (日本漢方生薬製剤協会)

鳥居塚和生 (日本東洋医学会)

引網 宏彰 (和漢医薬学会, 富山医科薬科大学 WHO 伝統医学協力センター)

山田 和男 (日本東洋医学会)

山田 享弘 (日本東洋医学会)

山田 陽城 (北里研究所東洋医学総合研究所 WHO 伝統医学協力センター)

詫間 浩樹 (東京大学大学院薬学系研究科医薬経済学講座博士課程)

Kiichiro TSUTANI, Norio AIMI, Go ITO, Sen SHINOHARA, Kazuo TORIIZUKA, Hiroaki HIKIAMI,  
Kazuo YAMADA, Takahiro YAMADA, Haruki YAMADA, Hiroki TAKUMA

2006

漢方処方でのATC分類表. 第2版  
Herbal ATC Classification of Kampo Formulae. 2nd ed.

ver. 1.0 5 March 2006

Herbal ATC Main Groups

- HA: 消化管・代謝系 Alimentary tract and metabolism  
HB: 血液・造血系 Blood and forming organs  
HC: 心血管系 Cardiovascular system  
HD: 皮膚系 Dermatologicals  
HG: 泌尿生殖器系・性ホルモン Genito urinary system and sex hormones  
HH: 性ホルモンを除く全身性ホルモン製剤 Systemic hormonal preparations excl. sex hormones  
HJ: 全身性抗感染症薬 Antiinfectives for systemic use  
HL: 抗腫瘍剤・免疫調整剤 Antineoplastic and immunomodulating system  
HM: 筋・骨格系 Musculo-skeletal system  
HN: 神経系 Nervous system  
HP: 抗寄生虫薬・殺虫剤・駆除薬 Antiparasitic products, insecticides and repellents  
HR: 呼吸器系 Respiratory system  
HS: 感覚器官 Sensory organs  
HV: その他 Various

HA01: 口腔用製剤 STOMATOLOGICAL PREPARATIONS

HA01A: STOMATOLOGICAL PREPARATIONS

HA01AD: その他の局所口腔治療用の製剤 Other agents for local oral treatment

HA01W: 生薬性口腔用治療薬 HERBAL STOMATOLOGICAL REMEDIES

HA01WA: タンニン含有剤 Herbal stomatological remedies containing tannins

HA01WB: 粘液含有剤 Herbals stomatological remedies containing mucilage

HA01WC: 樹脂または精油含有剤 Herbals stomatological remedies containing resin or essential oil

HA01WD: イリドイド含有治療薬 Herbals stomatological remedies containing iridoid

HA01WX: その他 Other herbal stomatological remedies

温清飲,

加減涼隔散 (浅田家方),

加減涼隔散 (万病回春),

甘草瀉心湯,

甘草湯,

甘露飲,

桔梗湯,

外台四物湯,

梔子鼓湯,

清熱補気湯,

清熱補血湯,

半夏散及湯,

半夏瀉心湯,

立効散

HA02: 制酸剤、または消化性潰瘍、膨満の治療薬

ANTACIDS, DRUGS FOR TREATMENT OF PEPTIC ULCER AND FLATULENCE

HA02D: 膨満抑制剤 ANTIFLATULENTS

HA02DW: 駆風剤 (排ガス) Herbal carminatives

解急蜀椒湯,

桂枝加芍薬大黄湯,

桂枝加芍薬湯,

厚朴生姜半夏人参甘草湯,

大建中湯,

中建中湯

HA02W: 生薬性消化性潰瘍治療剤

HARBAL REMEDIES FOR TREATMENT OF PEPTIC ULCER